

【引受保険会社】

Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA



redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

* Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

四半期運用レポート

2013年1月～2013年3月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン* / アライアンス・バーンスタイン株式会社



米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタインは、業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュース株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、アライアンス・バーンスタインの日本拠点で、1986年(アライアンス・キャピタル・マネジメント・ジャパン・インク 東京支店の設立)以来、個人投資家や機関投資家の皆様に幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

* 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2013年1月～2013年3月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、上昇し、TOPIX(東証株価指数)は12月末比+20.34%上昇の1,034.71ポイントで終了しました。

1月は、材料出尽くし感から一時調整する局面もありましたが、政府の大規模な緊急経済対策決定や円安進行による企業収益の改善期待などから上昇しました。2月は、日銀総裁の早期辞任表明を受けて円安が進行したことなどから上昇しました。G20(20か国・地域)財務相・中央銀行総裁会議の共同声明などを受け、円安けん制への警戒感が高まったことやイタリア総選挙の結果などから下落する局面もありましたが、次期日銀正副総裁人事の報道を受けて金融緩和期待が高まったことなどから上昇基調で推移しました。3月は、前半は、政府のTPP(環太平洋経済連携協定)交渉参加表明や日銀正副総裁人事が国会で同意を得たことなどから上昇し、後半は、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから横ばいで推移しました。

業種別(東証33業種)では、業績改善が好感された「ゴム製品」(12月末比+44.37%)が最も上昇した一方、下落した業種はありませんでした。

【外国株式市場】

米国株式市場は、1月は、「財政の崖」問題が回避されたことなどから上昇しました。2月は、後半イタリア政局の先行き不透明感などにより下落する局面もありましたが、好調な経済指標やFRB(米連邦準備制度理事会)議長が金融緩和に肯定的な考えを示したことなどから上昇しました。3月は、キプロス救済策を巡るユーロ圏の混乱などから下落する局面もありましたが、雇用統計など経済指標が好調だったことなどを受けて上昇し、NYダウは、12月末比+11.25%上昇の14,578.54ドルで終了しました。

欧州株式市場は、1月は、米国の「財政の崖」問題が回避されたことや欧州金融・財政問題への懸念後退などから上昇しました。2月は、ドイツの景況感改善などが上昇要因となりましたが、イタリアの総選挙結果などを受けて軟調な推移となりました。3月は、米国の景況感の改善などから上昇し、その後キプロス救済策を巡るユーロ圏の混乱やイタリア政権樹立が難航したことなどから下落しました。市場別騰落率は、英FT100は12月末比+8.71%上昇、仏CAC40は同+2.48%上昇、独DAXは同+2.40%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、1月は順調な国債入札や日銀による追加金融緩和観測の高まりなどから金利は低下(価格は上昇)しました。2月は、株高を背景に金利は上昇(価格は下落)する局面もありましたが、日銀総裁の早期辞任表明、円安の一服や日銀の正副総裁人事の報道を受けて金融緩和への期待が高まったことなどから低下しました。3月も、10年債の低調な入札などから金利は上昇する局面がありましたが、その後キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから金利は低下し、新発10年国債利回りは0.560%となりました(12月末は0.795%)。

日銀は、無担保コール翌日物金利の誘導目標を年0～0.1%程度で推移するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、1月は、「財政の崖」問題の回避や良好な雇用統計などから金利は上昇(価格は下落)しました。2月は、イタリア総選挙の結果を受けて先行き不透明感の高まりなどから米国債が買われる展開となり、金利は低下(価格は上昇)しました。3月前半は、雇用統計など経済指標が好調だったことなどから金利は上昇し、後半はキプロス救済計画に対する懸念が高まったことなどから低下しました。米10年国債利回りは、3月末には1.849%となりました(12月末は1.757%)。

欧州債券市場は、1月は、民間銀行がECB(欧州中央銀行)から調達した資金を一部早期返済するという報道などから金利は上昇しました。2月は、ECB総裁のユーロ高注視の発言やイタリア選挙の結果などから金利は低下しました。3月前半は、ECBによる金融緩和への期待の後退などから金利は上昇し、後半は、キプロス救済策を巡るユーロ圏の混乱やイタリア政権樹立が難航したことなどから低下し、独10年国債利回りは、3月末には1.289%となりました(12月末は1.316%)。

FRBは、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0～0.25%を維持しました。ECBは政策金利を据え置き、年0.75%を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、1月に、「財政の崖」問題の回避や政府が日銀に対して2%の物価目標を求める姿勢を示すなど金融緩和策強化の圧力を強めたこと、2月は日銀総裁の早期辞任表明により金融緩和が前倒しで実施されるとの観測、さらに3月は米国の経済指標が好調だったことなどから、期を通して円安が進行しました。円は対ドルで12月末比7円47銭(8.63%)円安ドル高の1ドル=94円05銭となりました。

ユーロ/円相場は、1月は、欧州債務問題への懸念の後退やECBの利下げ観測後退などから円安が進行しました。2月は、10-12月期のユーロ圏GDPが市場予想以上に落ち込んだことやイタリアの総選挙結果などから円高が進行しました。3月は、前半は、ECBによる金融緩和への期待後退などから円安が進み、後半はキプロス救済策を巡るユーロ圏の混乱やイタリアの政権樹立が難航したことなどから円高が進行しましたが、円は対ユーロで12月末比6円02銭(5.25%)円安ユーロ高の1ユーロ=120円73銭となりました。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

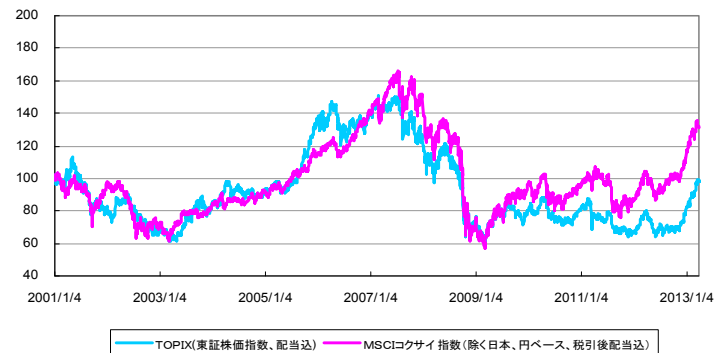
お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

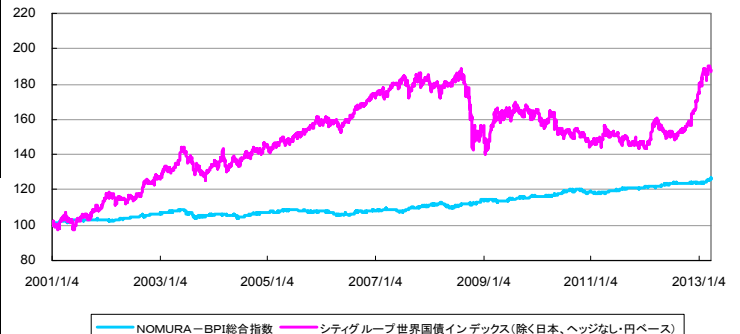
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

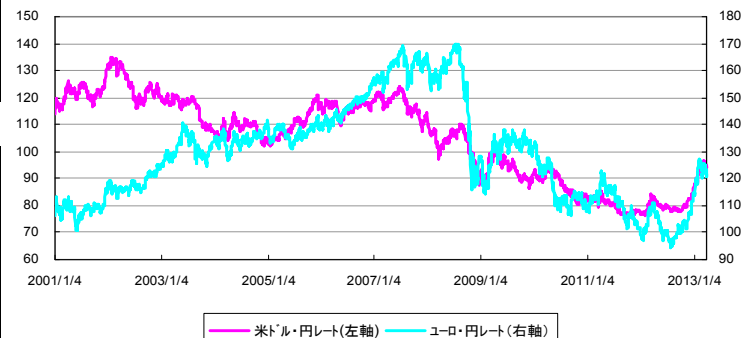


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

変額個人年金保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 70%			
ライフ・ソリューション50	株式 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 50%			
ライフ・ソリューション70	株式 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 30%			
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界株式	世界株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入れ外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH(為替ヘッジあり)	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンドII・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)	アライアンス・バーンスタイン・エル・ビー
マネープール	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額個人年金保険

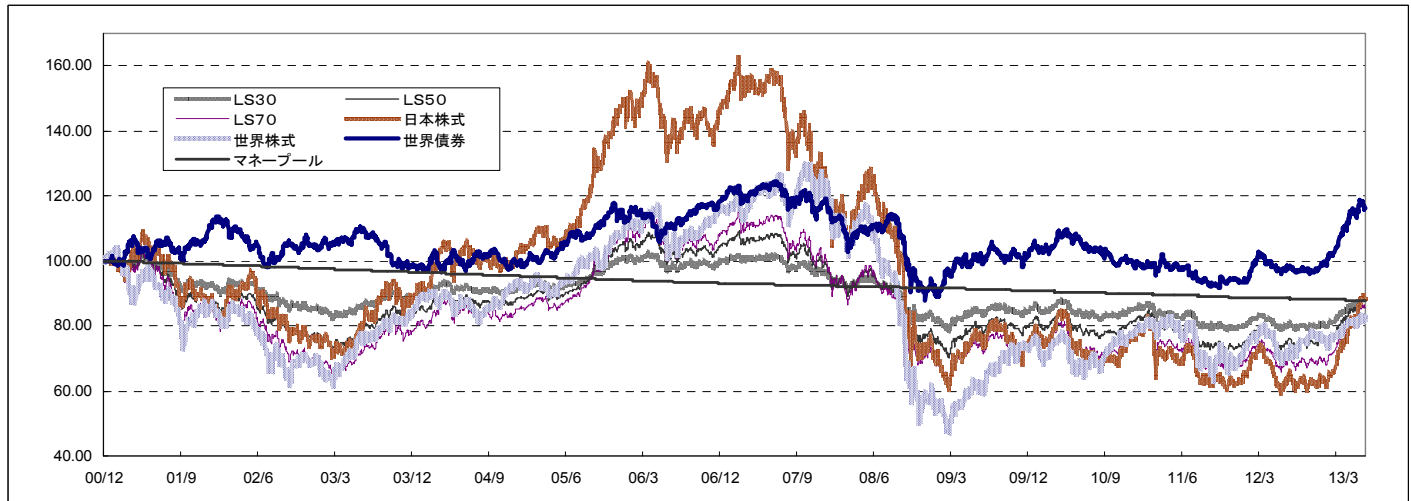
特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2013年3月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2013年3月末	88.16	過去1ヵ月	1.79
2013年2月末	86.61	過去3ヵ月	5.70
2013年1月末	85.88	過去6ヵ月	10.39
2012年12月末	83.40	過去1年	6.01
2012年11月末	81.15	過去3年	1.29
2012年10月末	80.14	設定来	▲11.84

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2013年3月末	87.91	過去1ヵ月	3.00
2013年2月末	85.35	過去3ヵ月	9.46
2013年1月末	84.16	過去6ヵ月	17.80
2012年12月末	80.31	過去1年	10.60
2012年11月末	76.70	過去3年	4.91
2012年10月末	75.11	設定来	▲12.09

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2013年3月末	85.71	過去1ヵ月	4.10
2013年2月末	82.33	過去3ヵ月	12.88
2013年1月末	80.80	過去6ヵ月	24.65
2012年12月末	75.92	過去1年	14.45
2012年11月末	71.42	過去3年	7.49
2012年10月末	69.40	設定来	▲14.29

日本株式			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2013年3月末	88.23	過去1ヵ月	7.08
2013年2月末	82.39	過去3ヵ月	21.73
2013年1月末	79.70	過去6ヵ月	42.20
2012年12月末	72.48	過去1年	20.82
2012年11月末	65.45	過去3年	7.03
2012年10月末	63.29	設定来	▲11.76

世界株式			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2013年3月末	82.62	過去1ヵ月	2.12
2013年2月末	80.91	過去3ヵ月	7.12
2013年1月末	81.21	過去6ヵ月	7.15
2012年12月末	77.13	過去1年	5.01
2012年11月末	76.85	過去3年	9.61
2012年10月末	75.45	設定来	▲17.37

世界債券			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2013年3月末	116.31	過去1ヵ月	1.72
2013年2月末	114.34	過去3ヵ月	8.26
2013年1月末	112.43	過去6ヵ月	20.78
2012年12月末	107.43	過去1年	15.19
2012年11月末	102.02	過去3年	8.04
2012年10月末	98.85	設定来	▲16.31

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。
 ※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
 ※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認くださいことができます。

マネーブール			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2013年3月末	87.84	過去1ヵ月	▲0.08
2013年2月末	87.91	過去3ヵ月	▲0.22
2013年1月末	87.99	過去6ヵ月	▲0.47
2012年12月末	88.04	過去1年	▲0.88
2012年11月末	88.10	過去3年	▲2.99
2012年10月末	88.17	設定来	▲12.16

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	82,429	3.0	203,726	3.3	111,862	3.0
その他有価証券	2,703,524	97.0	6,023,880	96.7	3,593,629	97.0
合計	2,785,953	100.0	6,227,607	100.0	3,705,492	100.0

項目	日本株式		世界株式		世界債券		マネーブール	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	120,951	3.2	76,996	3.3	97,752	3.9	32,868	9.6
その他有価証券	3,694,525	96.8	2,237,753	96.7	2,422,357	96.1	311,157	90.4
合計	3,815,477	100.0	2,314,749	100.0	2,520,110	100.0	344,025	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託並びに外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
 ※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

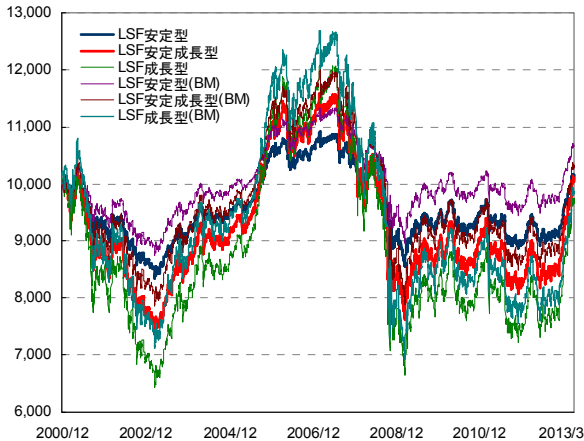
変額個人年金保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフ・ソリューション30・50・70 [2013年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



■利用する投資信託について

【投資信託名】 LS30 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B) (適格機関投資家私募)
 LS50 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B) (適格機関投資家私募)
 LS70 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B) (適格機関投資家私募)

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※ 当投資信託は、主として
 アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
 アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
 アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
 アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)
 に投資します。

※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	1.96%	6.17%	11.23%	7.44%	5.11%	1.20%
BM	1.60%	5.31%	9.45%	6.28%	5.03%	6.48%
差	0.36%	0.86%	1.79%	1.16%	0.08%	▲5.28%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	3.22%	10.03%	18.80%	12.18%	9.02%	0.46%
BM	2.66%	8.81%	15.95%	10.07%	6.78%	2.69%
差	0.55%	1.23%	2.85%	2.11%	2.24%	▲2.23%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	4.36%	13.57%	25.83%	16.18%	11.72%	▲3.35%
BM	3.69%	12.25%	22.46%	13.75%	8.16%	▲1.87%
差	0.67%	1.32%	3.37%	2.42%	3.56%	▲1.48%

■当投資信託の資産配分比率

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	26.80%
米国株式	3.00%	4.02%
欧州株式	3.00%	3.56%
日本債券	30.00%	30.34%
短期金融資産等	40.00%	35.28%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	44.71%
米国株式	5.00%	5.89%
欧州株式	5.00%	5.98%
日本債券	25.00%	24.86%
短期金融資産等	25.00%	18.55%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	59.83%
米国株式	7.50%	7.93%
欧州株式	7.50%	7.87%
日本債券	17.50%	17.27%
短期金融資産等	12.50%	7.10%
合計	100.00%	100.00%

※ 各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。(短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、LSF30(安定型)、LSF50(安定成長型)、LSF70(成長型)それぞれ、前四半期末比+6.17%、+10.03%、+13.57%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、前四半期末比+5.31%、+8.81%、+12.25%となり、ベンチマーク対比+0.86%、+1.23%、+1.32%となりました。

米国では、雇用統計は改善傾向を示し、ISM製造業景況感指数は、1月は53.1、2月は54.2といずれも改善、また、2月の小売売上高も前月比で1.1%増となって、緩やかながら順調な景気回復が見えてきています。そうした景気回復により、市場では米連邦準備理事会(FRB)が金融緩和策を早期に解除するのではないかとの見方を生み出す一方で、バーナンキFRB議長がそうした見方を打ち消すと、投資家は楽観的な見通しを更に強めています。欧州では、1月、ドイツを中心に景況感指数に改善がみられ、ユーロ圏の銀行が欧州中央銀行(ECB)による長期流動性供給オペ(LTRO)資金の繰上返済を公表するなど金融市場の改善傾向がみられました。2月に入ると、イタリアの政局において議会議選後の政権樹立に向けたプロセスが混迷を深めたことや、3月にはキプロスの救済を巡る問題が浮上すると、投資家心理は再び冷え込みました。日本では、安倍政権下での大胆な金融緩和とデフレ脱却への期待が高まる中で、株高と円安が更に進行し、3月に日経平均株価が約4年半ぶりに12,600円台を上回り、円ドル相場は3月末に94円台前半までに至りました。しかしながら、こうした動きは期待が先行している面が濃厚で、輸入額は前年同月比で1月が7.3%、2月が11.9%増となる一方で、輸出は1月の6.4%増の後、2月は▲2.9%となりました。

当四半期の当投資信託は資産配分と銘柄選択のいずれもが奏功しベンチマークを上回る結果となりました。なかでも、米国株式と日本株式を多めに保有したことなどがプラスに寄与しました。委託会社は今後の当投資信託について、ベンチマークに対してマネー・プールへの配分比率を低位として株式の配分比率を高める戦略を維持する方針です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

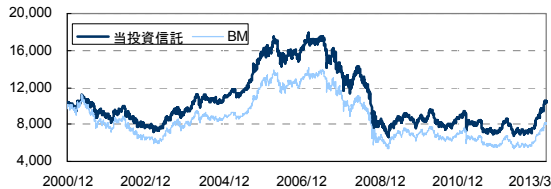
変額個人年金保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 日本株式 [2013年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	7.47%	22.92%	44.25%	23.05%	11.83%	4.16%
BM	6.05%	20.34%	40.31%	21.11%	5.71%	▲19.75%
差	1.42%	2.57%	3.93%	1.94%	6.12%	23.91%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 銀行業	13.93%
2 輸送用機器	12.60%
3 卸売業	9.89%
4 情報・通信業	8.88%
5 電気機器	6.00%
6 医薬品	5.32%
7 化学	5.21%
8 陸運業	4.90%
9 その他業種	28.44%
10 現金等	4.82%
合計	100.00%

○市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	92.73%
2 大阪証券取引所第一部	2.31%
3 東京証券取引所第二部	0.08%
4 大阪証券取引所第二部	0.05%
5 名古屋証券取引所第一部	0.01%
6 ジャスダック証券取引所	0.01%
7 名古屋証券取引所第二部	0.00%
8 現金等	4.82%
合計	100.00%

○組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.85%
2 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.83%
3 本田技研工業	輸送用機器	3.13%
4 日本電信電話	情報・通信業	3.13%
5 KDDI	情報・通信業	2.97%
6 キヤノン	電気機器	2.90%
7 大塚ホールディングス	医薬品	2.73%
8 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	2.72%
9 日産自動車	輸送用機器	2.69%
10 東海旅客鉄道	陸運業	2.55%
合計		31.51%
組入銘柄数		112銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+22.92%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+20.34%となりました。当期の日本株式市場では、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託はこれらの銘柄を少なめに保有していたことはマイナスへの寄与となりました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇したREITを多めに保有していたことや、下落したITソフトウェアを少なめに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した総合商社を多めに保有していたことや、上昇した不動産を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、下落したファナック(6954)を少なめに保有していたことや上昇したソニー(6758)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇したソフトバンク(9984)を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

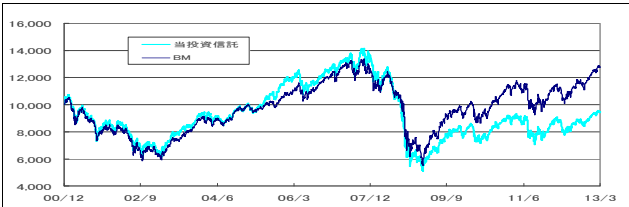
変額個人年金保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 世界株式 [2013年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.29%	7.55%	7.88%	6.34%	13.87%	▲4.94%
BM	2.82%	8.03%	9.92%	12.90%	29.06%	28.17%
差	▲0.52%	▲0.49%	▲2.04%	▲6.56%	▲15.19%	▲33.11%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス[®](税引前配当金込/為替ヘッジあり/円ベース)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 国/地域別構成比率

国名	マザーファンド
1 アメリカ	49.85%
2 イギリス	11.11%
3 スイス	9.62%
4 フランス	4.41%
5 中国	3.49%
6 日本	3.25%
7 ベルギー	3.19%
8 香港	2.62%
9 その他の国/地域	9.86%
10 現金等	2.61%
合計	100.00%

○ セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 情報技術	17.73%
2 金融	16.54%
3 一般消費財・サービス	14.72%
4 生活必需品	12.87%
5 資本財・サービス	12.29%
6 ヘルスケア	9.85%
7 エネルギー	9.10%
8 素材	4.29%
9 その他のセクター	0.00%
10 現金等	2.61%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1 ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	2.88%
2 アップル	アメリカ	情報技術	コンピュータ	2.81%
3 プリティッシュ・アメリカン・タバコ	イギリス	生活必需品	タバコ	2.75%
4 ダナハー	アメリカ	資本財・サービス	コングロマリット	2.54%
5 アンハイザー・ブッシュ・インベプ	ベルギー	生活必需品	飲料	2.46%
6 パートナース・グループ・ホールディング	スイス	金融	資本市場	2.24%
7 ネスレ	スイス	生活必需品	食品	2.18%
8 ウォルト・ディズニー	アメリカ	一般消費財・サービス	メディア	1.93%
9 グーグル	アメリカ	情報技術	ソフトウェア・サービス	1.84%
10 イーベイ	アメリカ	情報技術	ソフトウェア・サービス	1.81%
合計				23.43%
組入銘柄数				98銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+7.55%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス(税引前配当金込/為替ヘッジあり/円ベース)の騰落率は前四半期末比+8.03%となりました。

ベンチマークとの比較では、セクター配分はプラスに寄与したものの、銘柄選択はマイナス要因となりました。セクター配分では、情報技術セクターのオーバーウェイトなどがマイナス要因となった一方、素材セクターのアンダーウェイトなどはプラスに寄与しました。銘柄選択では、情報技術セクターにおける選択が主なマイナス要因となりました。当投資信託では、引き続き安定した成長が期待でき、健全な財務体質を有しながら、バリュエーションが妥当な水準にある銘柄を中心に情報技術セクターのオーバーウェイトを維持します。消費関連では、一般消費財・サービス・セクターや生活必需品セクターをオーバーウェイトとする一方、ヘルスケア・セクターはアンダーウェイトとする方針です。金融セクターはアンダーウェイトを継続しているものの、当四半期は組入比率を引き上げました。セクター内では、成長及びパフォーマンスへの貢献が期待でき、金融規制による影響を受けにくい新興国の銀行・生保などをオーバーウェイトとする方針です。資本財・サービス・セクターでは、2013年は中国と米国の景気回復に支えられると考えていますが、引き続き、世界経済の影響を比較的受けにくいと思われる企業を中心に組み入れていく方針です。その他、エネルギー関連では生産量拡大余地がある企業を、素材関連に関しては銅と金の関連企業に焦点を当てています。

今後も、アナリストによる徹底した企業分析を通じて、成長が見込まれ、かつ株価水準が妥当な優良銘柄を選別する方針です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

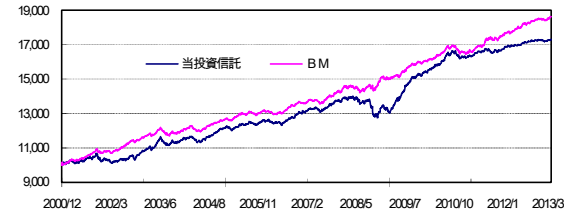
変額個人年金保険

特別勘定の四半期運用レポート（2013年1月～2013年3月）

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 世界債券 [2013年3月 末日現在]

■当投資信託の純資産価格の推移



※ 2000年12月21日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

投資信託	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.23%	0.14%	0.39%	2.09%	10.74%	127.53%
BM	0.52%	0.57%	1.47%	5.05%	15.27%	149.30%
差	▲0.29%	▲0.43%	▲1.08%	▲2.96%	▲4.53%	▲21.77%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(1996年11月20日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、パークレイズ・グローバル総合インデックス⁷です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

■当投資信託の詳細情報

○ 国別構成比率

国名	投資信託
1 アメリカ	28.89%
2 オランダ	9.80%
3 カナダ	9.76%
4 イギリス	7.51%
5 ドイツ	5.46%
6 日本	4.39%
7 メキシコ	4.22%
8 フランス	3.45%
9 その他	22.31%
10 現金等	4.21%
合計	100.00%

○ 格付別構成比率

格付	投資信託
AAA	61.39%
AA	10.58%
A	19.46%
BBB	8.57%
BB	0.00%
合計	100.00%

注) 現金等はAAAに含まれます。

格付基準:

※ ムーディーズ社またはスタンダード&プアーズ(S&P)社のうち、いずれか高いほうを採用しています。

○ 債券種別資産構成比率

債券種別	投資信託
1 国債	46.44%
2 投資適格社債	26.52%
3 カバード・ボンド	7.37%
4 政府関連債	4.71%
5 インフレ連動債	2.87%
6 モーゲージ・パス・スルー証券	2.50%
7 国際機関債	2.41%
8 商業用不動産担保証券	1.12%
9 その他*	1.85%
10 現金等	4.21%
合計	100.00%

* 国債先物取引等を含む場合がございます。

○ 組入上位10債券種類

銘柄	国名	格付		投資信託
		ムーディーズ	S&P	
1 アメリカ国債(2/15/15)	アメリカ	Aaa	AA+	6.76%
2 オランダ国債(7/15/13)	オランダ	Aaa	AAA	6.68%
3 アメリカ国債(5/15/18)	アメリカ	Aaa	AA+	4.31%
4 カナダ国債(6/1/15)	カナダ	Aaa	AAA	4.16%
5 アメリカ国債(5/15/17-8/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	3.86%
6 カナダ国債(3/15/14)	カナダ	Aaa	AAA	3.57%
7 メキシコ国債(6/20/13)	メキシコ	Baa1	A-	3.39%
8 日本国債(3/21/16)	日本	Aa3	AA-	3.03%
9 ドイツインフレ連動債(4/15/13)	ドイツ	Aaa	AAA	2.86%
10 ニューゼaland国債(12/15/17)	ニュージーランド	Aaa	AA+	2.57%
合計				41.19%

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ 通貨別構成比率

債券種別	投資信託
1 アメリカドル	98.41%
2 その他	1.59%
合計	100.00%

○ ポートフォリオの状況

平均デュレーション	投資信託
平均デュレーション	2.89

※ 「平均デュレーション」とは、当ファンドの組入銘柄のデュレーションを平均したものです。債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

当投資信託の騰落率は前四半期末比+0.14%、一方、ベンチマークであるパークレイズ・グローバル総合インデックスは前四半期末比+0.57%となりました。四半期を通じて、ールド・カーブ戦略では主に日本の中長期債の組入れを低めとした結果、パフォーマンスにマイナス寄与しました。一方、投資適格社債やメキシコの高めの組入れはプラスに寄与し、全体のマイナス分を一部相殺しました。

当投資信託は、投資適格債のみに投資する慎重な運用を維持します。ベンチマーク対比で最も比率を高くしているのが投資適格社債で、政府関連債、カバード・ボンド、モーゲージ・パス・スルー証券、商業用不動産担保証券(CMBS)の組入れもやや高めを維持しています。日本およびユーロ圏周縁国の国債の比率は引き続き低めとしているほか、米国は高めの配分としています。当投資信託はデリバティブを活用しデュレーションをベンチマーク並みとなるよう徐々に長期化しています。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

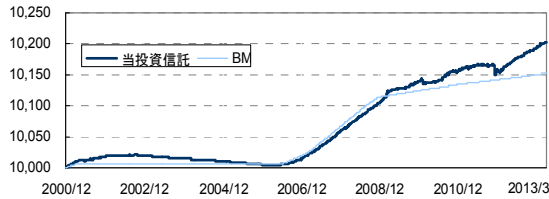
変額個人年金保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年1月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 マネープール [2013年3月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B) (適格機関投資家私募)
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.02%	0.08%	0.15%	0.34%	0.64%	2.02%
BM	0.01%	0.02%	0.04%	0.08%	0.25%	1.52%
差	0.01%	0.06%	0.11%	0.26%	0.39%	0.50%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート⁵⁾により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	0.88年	44.69%
国債	1.51年	20.57%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	0.00年	0.00%
金融債	0.00年	0.00%
社債等	0.34年	24.13%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等	0.35年	55.31%
CD		0.00%
CP		0.00%
T-Bill		54.33%
コールローン		0.98%
その他		0.00%
合計	0.59年	100.00%

○公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	87.01%
A	8.12%
BBB	0.00%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	95.13%

格付基準 ※ 海外格付機関の格付を優先します。

※ コールローンは格付別構成比率には含めていません。

(公社債の格付別構成比率と短期資産等の格付別構成比率の合計が100%になります。)

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付を採用します。

※ T-Bill等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。

※ T-Billに分類された1年未満の国債については「○公社債の格付別構成比率」に含めています。

※ 「T-Bill」には、残存期間が1年未満の国債を含みます。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○短期資産等の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
P-1	4.87%
P-2	0.00%
P-3	0.00%
無格付	0.00%
合計	4.87%

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+0.08%、一方、ベンチマークである日本円無担保コールオーバーナイト物レートは前四半期末比+0.02%となりました。当四半期は、安倍政権下での大胆な金融緩和とデフレ脱却への期待が高まる中で、株高と円安が進行し、3月21日には日経平均株価が約4年半ぶりに12,600円台を上回りました。輸入額は、前年同月比で1月が7.3%、2月が11.9%と増加傾向となる一方、輸出は1月の6.4%の後、2月は▲2.9%となりました。また、1月の機械受注は前月比▲13.1%と4ヶ月ぶりのマイナスとなったほか、鉱工業生産は、2月には前月比▲0.1%となりました。2年国債利回りは0.046%低下の0.052%となりました。当四半期の当投資信託はサムライ債への投資が奏功しベンチマークを上回りました。今後は、新体制となった日銀による新たな金融緩和策により、日本国債利回りは低位のまま推移するとみて、今後の運用方針として、年限の短い国債への投資で流動性を確保しつつ、質の高い社債へ投資して、安定した運用と利回りの向上をめざす方針です。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証東京証券取引所が有しています。東証東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード・アンド・プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード・アンド・プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc.の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- *5 「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。
- *6 「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCIワールド・インデックス(税引前配当金込/為替ヘッジあり/円ベース)は、MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ヘッジベースに換算したものです。
- *7 「パークレイズ・グローバル総合インデックス」は、パークレイズ・バンク・ビーエルシーおよび関連会社(パークレイズ)が開発、算出、公表を行うインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他一切の権利はパークレイズに帰属します。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について ①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払い戻し金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

<年金支払開始日前>

●特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用 (増額費用)	特別勘定繰入前	保険料の 2.0%	保険料から契約初期費用として2.0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。 (増額費用も同じ)
保険契約管理費 (積立金比例額)	毎日	特別勘定の積立金総額に対して 年率1.2%	当社の経費に充当されます。 (基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。)

* 毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1.2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費 (件数比例額)	月単位の契約応当日	毎月 100円	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目 1,500円 2回目以降は1回につき 2,300円 ^(*)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は 無料 2回目からは1回につき 800円 ^(*)	1か月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日 および 貸付金の返済時	貸付金額の年利 1.2%	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の 8.0%~0.8%	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の 8.0%~0.8%	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※ 貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※ 将来、上記の内容が変更になることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について ②

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0.945%程度(税抜0.900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1.050%程度(税抜1.000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1.155%程度(税抜1.100%程度)	
		日本株式 年率0.840%程度(税抜0.800%程度)	
		世界株式 年率0.8925%程度(税抜0.850%程度)	
		世界債券 年率0.460%程度 ^{*1}	
		マネーパール 年率0.034125%～年率0.483000%程度 (税抜0.0325%～0.4600%程度) ^{*2}	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。

管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。

その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかりますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネーパールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

<年金支払開始日以後>

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の 契約応当日	支払年金額の1.0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>